

2009年8月7日

第63回 フランクフルトモーターショー 出展概要

富士重工業は、ドイツで9月開催予定の第63回フランクフルトモーターショー(9月15日~16日プレスデー、9月17日~27日一般公開)に、今夏、欧州市場へ導入となる新型スバル レガシィとアウトバックを出品します。

新型では、スバルの新世代自動変速機として開発された無段変速機「リニアトロニック」、クレードル構造を採用したシャーシ、広く快適な室内空間を実現した新たなパッケージングの採用など、その商品価値をいっそう高いものとしています。欧州市場には、昨年量産乗用車用としては世界初として導入した水平対向ディーゼルエンジン、スバル ボクサー ディーゼルがラインナップされます。また、地域限定で展開されるガソリンターボモデルを除く全てのモデルでユーロ5規制対応とし、環境性能を高めました。

スバルのプレスブリーフィングは、9月15日(火) 14:30よりスバルブースにて行われる予定です。



レガシィ セダン 2.0D Sport (欧州仕様)



レガシィ ワゴン 2.5i (欧州仕様)



アウトバック 3.6R (欧州仕様)

➤ スバル レガシィ

第五世代となる新型レガシィは、水平対向エンジンを中心とするスバル独自のシンメトリカル AWD (All Wheel Drive) をベースに、誕生以来20年にわたり一貫して磨き続けられてきたハンドリング性能や安全性の向上とともに、乗る人すべてにとっての快適、信頼の走りの実現と環境性能の向上を目指しています。ボディタイプはセダンとツーリングワゴンの2タイプを用意。2.0 および2.5 のガソリンエンジンと2.0 ディーゼルターボエンジンのAWDモデルをラインナップしています。(一部市場には2.5 ガソリンターボエンジンも用意)

従来型に対し、全長をセダンで 65mm、ワゴンで 55mm 拡大し、ホイールベースは 80mm 延長することで後席足元スペースを大幅に広げました。また、リニアトロニックを搭載する 2.5 モデルでは、従来型の AT モデルに対し燃費をセダンで 5.9%、ワゴンで 6.9%向上しています。

➤ スバル アウトバック

アウトバックは、1995 年に初めて世界導入されて以来（欧州には 1996 年）、シンメトリカル AWD の特長を生かし、乗用車のもつ優れたハンドリング性能や乗り心地と、SUV のもつ走破性や多機能性を兼ね備えたクロスオーバービークルの先駆けとして世界各国で高い評価を得てきました。第四世代となる新型では、十分なロードクリアランスを確保するなど従来の特長を活かしつつ、力強く存在感のあるエクステリアデザインやゆとりを感じるパッケージングを新たに採用するなど、さらなる進化を図りました。2.5 ガソリンエンジンと 2.0 ディーゼルターボエンジンに加え、3.6 水平対向 6 気筒エンジンを搭載したフラッグシップモデルも用意しています。

<主な諸元（欧州仕様）>

[レガシィ セダン]

全長×全幅×全高（mm）：4,730×1,780×1,505

ホイールベース（mm）：2,750

[レガシィ ステーションワゴン]

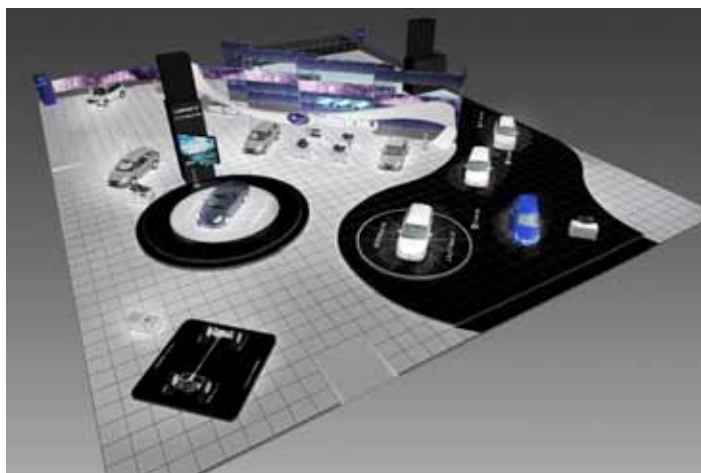
全長×全幅×全高（mm）：4,775×1,780×1,535

ホイールベース（mm）：2,750

[アウトバック]

全長×全幅×全高（mm）：4,775×1,820×1,605

ホイールベース（mm）：2,745



スバルブースイメージ